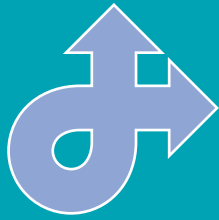


新制作

SHINSEISAKU



Vol.61/2011

新制作協会 広報誌



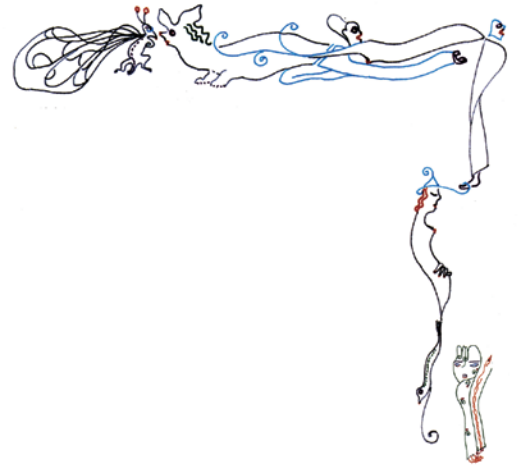
未来へ
表現のちがいを越えて
新制作展は第75回記念展を迎えます。
2011.9/14(水) - 9/26(月) 六本木・国立新美術館



Since1936



第75回記念新制作展
委員長
渡辺 恂三



新制作も今年は三四半世紀の75回記念なので色々な企画があります。

まずは外部の美術館の企画ですが、小磯美術館と川越市美術館で『昭和モダン 藤島武二と新制作初期会員達』と云う企画が進行中です。当該の美術館サイドが中心となって、素晴らしい充実した内容になってる様で大いに期待できます。

我々としての企画は、絵画・彫刻・スペースデザイン三部合同の展示があります。三部の表現の違いを超えて共同の空間を創ってみようとするものです。詳しくは次頁をお読み戴ければ幸いです。

75回だからと云っても基本的に何も変わるところはありません。これ迄の仕事を進めるだけのことです。特別な心構えとか抱負のようなものはないのですが、確かに今年是一種居まいをただすような緊張感があります。

日本はゼツタイ沈没なんかしません。敗戦の時、私は小六でした。私は戦後そのスタートから過ごしてきました。あの時の日本よりは良い筈です。あの頃はなにも将来の保証などない最低の状態だったのに妙に明るかった。特に美術は明るかった。何も無いのに何でもできるかの様だった。新制作も戦後の美術状況をリードしていた。いや、新制作ばかりでなくどこの会も生まれ変わった様な活気があった…。

今年の企画のひとつに、戦後の新制作を顕彰しようとするシンポジウムがあります。

戦後の再生期の中で、第一二世世代の先人達が如何に日本の美術状況を牽引してきたかと、他の会や次第に起こってきた無所属の一匹狼達、海外から押し寄せてきた東西の動向も含めて立体的に掘り起こしてみたい…。

新制作の創立の頃や、その掲げた宣言などは第何回記念など行われる度ごとに顕彰されているのですが<戦後の>となるとあまり取り上げられていません。戦後は現在に繋がるものでありながらかなり歴史の彼方にバイバイしているのです…。なにせ二世世代も創立会員同様もう殆ど亡くなっておられるので…。こちらもおさらいしておかないと…と云うことです。

しかし、これは前半のこと、後半はそれに絡んで《新制作の今を噛み付く》とでも云う編。これは私のような年代の者でなく、もう少し若い世代に引き受けてもらって…と、どう展開しますやら混乱は必至でありましょうが、それをも期待して待望しているところです。

話をもとへ戻しましょう。日本は沈没などしません。大丈夫、リセットしてスタートすれば却って今までより良い世の中になるに違いありません。

今年は太平洋の沖合いで神様が黙示録風に云えば、《怒りの葡萄》を踏まれておられる御様子で、警告でもあるのでしょう。我々は昔日の繁栄を振り返ってはなりません。口トの妻よ、塩の柱になる勿れ！ただ<振り出しに戻る>と云

う目が出ただけじゃないですか。<社長になる>なんて目が出たらそれこそ最低！今日ビの社長なんてみんなの前で土下座するだけの役回りでしかありません。

75回記念ですって！なんか嬉しいですか？私だって現在喜寿の真ッただなかです…。嬉しくもなんともない。誰だって歳ぐらいとれます。長生きなんて自慢にならない…。益々社会に適合できない、パソコンもできない、ケイタイも使いこなせない呆ケツトモンスターになっていだけじゃないですか！

新制作だって気をつけなくっちゃいけない。今回の神様の警告はまさに弛まんとしていた我が頬をひつ叩いてくれた。私は可愛い年寄りなんかになろうとしていた！枯れた好々爺になろうとしていた。すんでのところで社会が仕組んだ陰謀にハマるところだった。これから私は《昔は良かった》式のことを云って若者に嫌われる困った老人になるゾ！…と云う訳で、もう歴史上のことになってしまった戦後の新制作を喋べろう。昔日の繁栄を顧みるのではない昔日の無を見据えようとするのです…。

なんだか私、調子オカシクなってきたみたい、ご挨拶だった筈なのに、もうやめますネ。





未来へ - 表現のちがいを超えて -

第75回記念展準備委員会企画のご案内

記念企画

< 三部合同展示 >

- 会場 / 新制作展3F展示室
- 出品 / 【絵画部】上岡真志、高堀正俊、竹内一、田村研一、沼本秀昭、藤田邦統、武藤博美、渡辺恂三
- 【彫刻部】大野匠、奥田真澄、加藤裕之、瀧 徹、細田修己、増井岳人、森 克彦
- 【スペースデザイン部】今村敬子、片岡葉子、杉田文哉、福井一真、若松美佐子

絵画・彫刻・スペースデザインの三部による、特別企画<三部合同展示>を行います。記念マークが象徴するように、三部が一つの場を共有し展示することを通して、今迄にない会場空間の創出にご期待下さい。

出品作家は、絵画部8名、彫刻部7名、スペースデザイン部5名の20名。記念展準備委員会の選抜で構成し展示します。

委員会ではこの企画について、その理念、出品作家の選抜、展示方法など、より具体的に内容を詰めるために会合を重ねて参りました。

過去の運営上の考えや主張の違いを乗り越え、75回の節目に三部が同じ空間を共有し展示を行う事は、新制作が一つの作家集団としての活力を取り戻そうとする一つの現れでもあるでしょう。また、歴代の運営に携わった諸先輩の皆さんによる、協調ための努力により、現在の我々が在ることを思うと記念事業の深い意味があることを考えざるを得ません。

今回の企画は、新しい試みにチャレンジし、新制作の未来へ向けて我々がどのような眼差しを持ちうるかを問うことではないでしょうか。

すべてが意味付けによりアートとなるような現在、私達は様々な問題を抱えながらも、新制作という無形の場に集い、一人の表現者として純粋性を保ち、展覧会を実現することを通じて、何らかの生きたメッセージを社会に対して投げかけてゆけると信じています。

記念企画

< シンポジウム >

新制作を考える — 時代と表現 — 公募展とは？

- 会場 / 国立新美術館 3F 講堂
- 期日 / 2011.9/18 (日)
13:00 - 14:30
- シンポジスト
南 巖 宏 (みなみしま ひろし)
昭和32年生まれ、長野県出身
美術評論家・女子美術大学教授・筑波大卒業書「豚と福音」「Beato Angelo」「Santa Maria」等

絵画・彫刻・スペースデザイン各部会員

美術評論家の南 巖 宏氏を迎えて、絵画、彫刻、スペースデザイン各部の会員によるシンポジウムを行ないます。第一部では、これまでの新制作の歴史をふりえかえり、第二部では、これからの新制作、そして公募展の未来を考えます。作家としての生の声による現在の美術のあり方を問う企画です。ふるって御参加下さい。

記念企画

新制作の歴史を展示

- 会場 / 新制作展3F展示室

過去の賞牌、図録を同時展示し新制作展の歴史をふりかえります。

協会会員が制作した、版画や彫刻などの<賞牌>には、現在までの新制作が映し出されています。

通覧できるまたとない機会です。是非、ご覧下さい。

記念マーク



第75回展の開催を記念し、新制作展が絵画・彫刻・スペースデザインの三部で成り立っていることを各部のイメージカラー●●●で表現しています。中央の白地は光の三原色の混合による協調を表現し、開催に向け色彩が融合し共同することで、次代に向けた新制作展の前進を意図しています。

作成 / 第75回記念展準備委員会

記念グッズ

< 新制作マークオリジナルクリップ > < オリジナルてぬぐい >

- 販売 / 各階特設コーナー

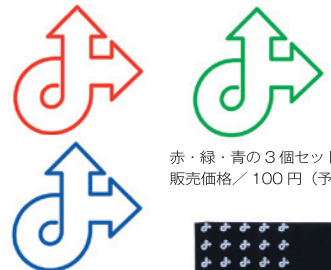
第75回記念展グッズの一つとして、新制作協会のマークを形取ったオリジナルクリップを製作しました。記念展のコンセプトに基づき、絵画・彫刻・スペースデザインの各部のイメージカラーである赤・緑・青をあしらった3色セット。タテ・ヨコ3.5cmと大型で、クリップとしての使い方もさることながら、そのまま並べるだけでもカラフルで楽しいステーションナリーグッズです。

ほかにも、新制作オリジナル柄のてぬぐいをつくります。地に新制作のマークをあしらったデザイン。さび朱と黒のオリジナル2種類です。

新制作の理念「向上と前進」をいつも身近に持っていてください。

オリジナルクリップ

※デザインイメージ図



赤・緑・青の3個セット
販売価格 / 100円 (予定)

オリジナルてぬぐい

※デザインイメージ図

2枚セット
販売価格 / 未定





新制作展は、絵画・彫刻・スペースデザインの三部から構成され、各作品の発言を大切にゆったりとした展示空間を演出します。

絵画入口は●、彫刻は●、スペースデザインは●のイメージカラーでディスプレイされています。

第75回の記念展を迎え、開催準備にあたる各部代表委員にメッセージと企画について聞きました。

絵画



絵展会場入口ディスプレイ

新制作展は、75回目の開催を迎えます。若き9人の青年画家が独自の芸術活動を願う「反アカデミック」宣言の後、昭和11年に第1回展を開催しました。それから75回の時を刻み、絵画部会員も現在100名を超える大所帯となりました。

絵画部では一般作品部門のほかに、幅広い表現やジャンルを受け入れるために、新たに公募二部門「小作品部門・データ部門」を設けました。

「大きいことがイイことだ」新制作展に出品するなら150号を出さなければ…。いつの間にかそれが浸透されてしまったように思われます。

「小作品でもイイものは良い！」そんな当り前のことが、いつの間にか忘れ去られ、あえて設けたのが小作品部門です。大作作品では味わえない小作品ならではの魅力ある作品が集まることを期待しています。

また、若い世代(30歳以下の方)にも門戸を開き、遠隔地からも出品しやすいように、且つ、応募時の負担も軽くすむデータ画像審査を行っています。

新制作協会マークの意味である“前進と向上”のもと、新制作らしい未来への新たな展開に向けて挑戦して参ります。

● 初期会員素描展示

創立会員の伊勢正義・小磯良平・脇田和をはじめ新制作を支えてきた初期会員のデッサンを展示いたします。

● 第75回記念『昭和モダン 藤島武二と新制作初期会員たち』展

絵画部では、本展とは別に75回を記念して、『昭和モダン 藤島武二と新制作初期会員たち』展が主催/小磯記念美術館・川崎市立美術館、共催/朝日新聞社、協力/絵画部で開催することが決まりました。尚、日程等は展覧会情報頁をご覧ください。

● オープントーク/ 絵画展示室 9/14(水) 14:30-16:30

開催初日と云うこともあり、普段接することの少ない地方の会員をはじめ多くの会員と作品を前に、交流を深めていただく場として設けました。

● ギャラリートーク/ 絵画展示室 9/18(日) 15:00-17:00

会員の作品についての解説と出品者の作品講評を中心にトークする場です。勿論、出品者以外の方も大歓迎です。

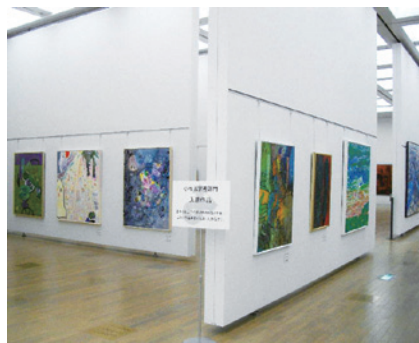
● グッズ

今年もポストカード・好評のキャンバスをはじめ色々楽しめるグッズを考慮中です。お楽しみに！

絵画部代表委員/小島 隆三



絵画/第74回展オープントーク



絵画/第74回展小作品部門会場

彫刻

第75回を記念した特別企画、三部合同展示は初めての試みです。彫刻部からは7人の参加になりますが垣根を取り払っての展示は大いに楽しみなことであり、今後に繋がることを期待させてくれます。

展示と関連したシンポジウムは、かつての反アカデミックを柱に設立した時代を振り返り、これからの新制作についてのトークバトルも楽しみです。

今後の彫刻部を考える時、緊張感のある空間を求め、個人の充実と空間の確保を大切にダイナミックな展示空間を構成すると同時に、企画のあり方も大切な要素です。社会との繋がりも考慮し、展示内容だけではなく、背景にある意味も考えたいと思います。

● 企画展示

通常の展示に全力を注ぐ一方、企画展示「森林保護と彫刻」を開催します。

● ギャラリートーク/ 彫刻展示室 9/19(月・祝) 14:00-16:00

「ボリビア国際彫刻シンポジウム 2010 and FSC 森林サミット 2011 in 山梨 参加報告」と題して彫刻展示室において開催します。

昨年の企画「ボリビア国際シンポジウムに参加して」に続いて、今年はボリビア国際彫刻シンポジウム理事で彫刻家のファン・ブスティージョス氏をお招きし、社会性のある芸術活動について考えたいと思っています。よって、森林の保護活動と、それに必要な管理認証を行っている国際的非営利団体である FSC (森林管理協議会) プロジェクト「FSC森林サミット2011 in 山梨」の彫刻シンポジウムにファン氏と彫刻部会員が参加します。

山梨県立大学キャンパスを会場にFSC認証の一本の木を無駄なく使って、自然への気持ちを込めて制作するキャンペーンで、自然と彫刻についての参加報告があります。

● **新制作展は 2011. 9/14 (水) - 9/26 (月)迄、六本木 国立新美術館で開催いたします。**

開館時間：10:00～18:00 (入場 17:30迄)
 入場料：一般 800円 学生無料
 ※金曜日夜間開館 20:00 終了 (入場は19:30迄)
 ※開館時間等は変更の場合あり。開館状況の確認は
 国立新美術館 HP・ハローダイヤル (03-5777-8600) で
 ※最終日14:00 終了 (入場は13:00迄)
 ※休館日 9/20 (火)

● **オープントーク/彫刻展示室**
9/14 (水) 14:30 - 16:30

会員、協友、出品者、入場者、全ての方を交えて交流を図ります。自由に語り合い、刺激ある有意義な時間になりたいと考えています。その流れで記念祝賀会に臨みたいと思います。

● **チャリティ**

今年は未曾有の災害がありました。そこで、「私たちに何かできることはないか?」そんな思いからチャリティを計画中です。シンポジウムで協力していただく FSC は被災地に認証材を復興仮設住宅建設に提供し、林業の雇用等、復興事業に取り組んでいます。FSC 認証済のドローイング用紙を株式会社竹尾様より無償提供していただき、会員はその紙にドローイングするチャリティで FSC に寄付し、震災復興の支援を行います。

※今年は尊い 4 名の会員を失いました。創設会員の佐藤忠良氏、西常雄氏、阿部米蔵氏、吉田正浪氏のご冥福をお祈り致します。最後の出品となります遺作展示も御覧頂きたいと思います。

彫刻部代表委員/古川 武彦



彫刻/第74回展 シンポジウム



彫刻/第74回展 展示会場

**スペース
デザイン**

東日本大震災により被害を受けられた皆様、ご関係の皆様、心よりお見舞い申し上げます。

新制作スペースデザイン部(以下SD部)は空間におけるあらゆるジャンルの作品が対象となります。作品に込められた表現とそれが位置づけられる空間との関係は、どのジャンルにとっても重要なポイントです。

展示空間として、床置きや壁掛けに加え宙吊りや、照度をおさえた空間。また、自然の光や風を意識できる空間…。などが様々なジャンルの作家の創作意欲を刺激してきました。

73回展より加わった「ミニチュール部門」も表現の場として定着し、展示空間において重要なアクセントになりました。

様々な表現形態をどのように構成するかが重要な課題です。ひとつひとつの楽器が奏でる音色が重なり合い、全体として心地よいハーモニーが生まれるように、作品どうしがバランス良く主調し、響き合う緊張感のある空間づくりを目指します。

● **ギャラリートーク/SD展示室**
9/17(土) 13:00 - 14:00

作品を前にギャラリートークを行います。出品者と会員による作品の解説やフリートーク。

● **レクチャー/3F研修室**
9/17(土) 14:30 - 15:30
テーマ「素材と表現」

「第75回記念展企画3部合同展示」に出品する新会員のお二人、福井一真、若松美佐子と私、杉田文哉によるレクチャーを行います。「素材と表現」をテーマに作家の制作における素材へのこだわりや手法、また現場の風景など、具体的な解説を通して創作の魅力に迫ります。

期間中、展示会場には作品案内として会員がお待ちしております。作品に対するご質問等、お気軽にお尋ねください。

● **チャリティーグッズ**

今回も、会員及び受賞作品の写真はがきや去年大変好評を頂いたスペースキューブの販売を行います。SD部の会員が、一辺約10cmの透明アクリルBOXの中にユニークな発想を盛り込みます。

尚、収益金の一部は[あしなが育英会]を通じて「東日本大震災津波遺児募金」に寄付させていただきます。

SD部はこれからも創作活動を通して被災された方々を応援いたします。

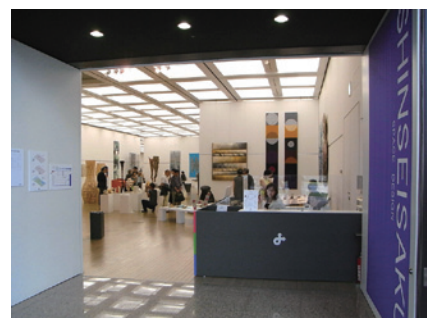
スペースデザイン部代表委員/杉田 文哉



SD/第74回展 チャリティーグッズコーナー



SD/第74回展 展示会場 ミニチュール部門



SD/第74回展 展示会場入口

追悼



彫刻部創立会員
佐藤 忠良

佐藤先生を偲ぶ

彫刻部 渡辺 隆根

先般開催された世田谷美術館での佐藤忠良展「ある造形家の足跡」を見ました。

佐藤先生の自画像のデッサンを見て様々なことが思い出されました。朝日新聞に紹介されたこの展覧会の記事に、自画像について書かれています。町工場の工員のような、とする一方「斜に構えた表情からは、すべてを見透かそうとする芸術家の冷徹さが見て取れる。」と書かれていました。



《自画像》紙・鉛筆、1972年
個人蔵 撮影：上野則宏

大学院を修了して、父親のアトリエ裏で小さい石を彫り始めていた頃、突然お電話をいただき、先生のアトリエに伺いました。造形大学を創るので助手として来ないか、というお話でした。初対面でしたがお茶を入れてくださりながら、チラッと見る目がその自画像の目でした。今でもはっきりと思い出します。黒くはなく、茶色でもなく、灰色に薄い緑が入ったような、瞳の形がはっきり見える目でもとても怖い目でした。

佐藤先生は、東京造形大学の美術学科の中心でした。50代半ばの働き盛り、日本の美術のためと認識し大きな目標に向かっていました。先生は専攻内が偏りすぎないように、客観的に気を配った教師の配置も心がけておられました。

大学の助手の立場は学生と最も多く接する役目であり、私と同世代の人物を桑沢研究所に雇用し、大学の場で一緒に彫刻が出来るようにしました。グランドの隅にプレハブと車庫で出来た石彫場で制作を始め、同僚は他の会で受賞し、私は新制作で新作家賞を貰うことになります。先生もかなりホッとされた様子で、桑沢研究所の退職金を寄付し、私たちに石を割る削岩機とコンプレッサーを購入してくれることになりました。当時は他大学に先立つての設置でした。当時使用されていた道具は、鉄の鑿が最も有効な道具でした。スキーのお好きな先生は、石を割ることに例えて、足で昇ってすべるか、リフトで昇るかの違いがあるなどおっしゃっていました。私たちは削岩機を駆使し、石彫制作に励み、同僚はすぐに他の会の会員になり、私も少し遅れて新制作の会員にさせていただきました。



《帽子・夏》ブロンズ、1972年
宮城県美術館蔵 撮影：上野則宏

岩野勇三氏とも初対面でしたが、すぐに親しくなりました。岩野氏は佐藤先生の「やせた女」という作品はいい作品だと感動的に言っていました。展覧会の度に、またアトリエに伺った時などにじっくりと見せていただきましたが、とても強いもの、表現を超えたたくましさを感じました。何年もかけて作ったものだとおっしゃっていました。私はこの作品がとても好きです。

その後、高尾の山の麓の小さな大学に

佐藤忠良と云う魂の立像

絵画部 荒井 茂雄

立像 座像 首像 然り
言動もまた然り
そこには深い思いやりが生きていて
その言葉を幾度かいただいた
指折り数えても数々
銀座ミキモトで 我れの個展のとき
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館での
佐藤忠良展のとき
或るレセプションのとき 等
何時もひかえめの言葉には
ひとかけらの説明もない
その奥のことを読みつけ一歩手前で止め
後の余韻を私に呉れた

あのときの言葉もそうであった
印度洋を廻ってフランスへ向う船上の夜明け
ここは南支那海
その様を語って呉れた
その様が語り手を離れて聞き手を染めた
豊かな想像が俄かに展開した
この南支那海の空を
茜の色に焦がして
悠然と昇る太陽の誇らしく雄姿を

二十世紀をまたいで
二十一世紀の大地に
佐藤忠良と云う魂の像が 立つ

遥かに 生まれ育った東北北海道をみて
愛すればこそ 苦言を呈して育てた
新制作を眼下にみて

絶えることのない愛の灯を
永遠に

も紛争の影がやってきます。

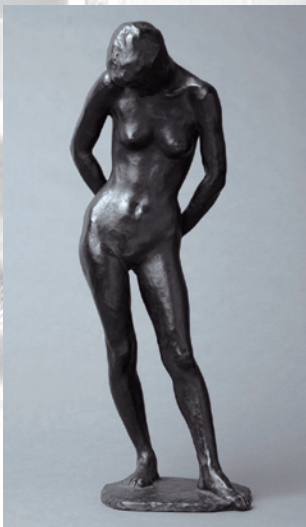
全く彫刻が出来ない状況に、彫刻家としての先生のいたたまらなさは、傍目にもお気の毒でした。先生は、自分の60歳という区切りに大学をやめたい、自分に彫刻をさせてもらいたいと学生達や私達にうちあげました。その年、先生は退職され、新制作展に発表されたのが「帽子・夏」という作品です。いろいろな意味で制作に集中されたのだと思います。

その後も、週に1日、朝早くから造形大学に来られました。新入生の最初の授業である石彫場で、かなり長くお話をされるのが毎年の行事でした。素材と道具の扱いを体得する授業を1年度に集中し、4年間、人体塑造を欠かさない実習は、開校以来現在も続いています。1966年以来、千数百人の彫刻専攻卒業生は、佐藤先生の敷かれたカリキュラムから育ち、発展しています。また、毎週来られるのは80歳を過ぎても続けられていました。その後は年2回になりましたが、91歳までは来られたようです。

この上なく多くの学生に愛された先生です。



若き日の佐藤忠良先生



《やせた女》ブロンズ、1953年
個人蔵 撮影：上野則宏



思い出の写真
左から佐藤忠良、荒井、猪熊弦一郎

忠良先生の絵本

スペースデザイン部 小野 かおる

佐藤忠良先生が亡くなられた。もうあの屈託のない笑顔に会えないと思うと、とても寂しい。

昨年暮れ、北海道の<子供の本>のシンポジウムで、英米文学研究者・評論家・日本児童文学研究者の吉田新一先生のお話を伺った。その中に忠良先生が、昭和17年、18年に吉田一穂／文で描かれた2冊の絵本を紹介された。『ウシヨカフムラ』、『マキバ』である。

私は初めて見た。それは、私が云うのもおこがましいが、構図・デッサンのしっかりとした絵本に仕上がっていた。当時「子供は小形の大人ではない、子供としての人格がある」と云う意識が定着し、子供が子供として描かれるようになっていた。それらの本も忠良先生の確かなのびのびとしたデッサンが、絵が、躍動している。

それにしても、昭和17年～19年に金井信生堂発行とは。忠良先生がシベリヤ送りになられる以前のことではないか。そんな前から子供の本を描こうと思われていたなんて嬉しい限りである。

忠良先生の絵本は、やわらかくて暖かい。今、子供や大人が一番知っているのは『おおきなかぶ』トルストイ／作・内田莉莎子／訳の本だろう。内田さんは内田巖さんの長女で、ロシアの子供の本の翻訳の第一人者である。ロシアにはない日本語のかけごえ「ウントコドッコイショ」なんて入れて子供達をわくわくさせる。忠良先生の絵はと云うと多分ロシアで見た、おじいさん、おばあさん。本当に見た、会った人達をリアルにデッサンされたのではないか。記憶の中か紙に描いたかは分からないが、実に生き生きしている。忠良先生でなければ描けないデッサンがそこにある。



『おおきなかぶ』福音館書店刊

最後の絵本『木』は忠良先生が、木と話をされながら描かれたスケッチに、詩人の木島始さんが詩をつけたもの。

<忠良先生の木>は、見ること、よく見ること、描くこと、しっかり描くこと、一本筋が通っているのである。



『木』
福音館書店刊



report

第74回新制作展 受賞作家展

新制作協会は、その年の新制作展に応募し、質が高く優秀な作品を制作した作家に、新制作協会賞及び新作家賞を贈呈します。受賞者には、賞牌として協会会員の作品が授与されます。作家の向上と前進を期待し、意欲的な新鋭作家を顕彰するために、毎年<受賞作家展>を開催しています。

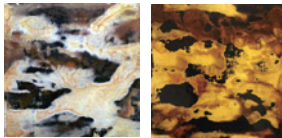
絵画

2011.1/24 - 1/29

銀座井上画廊
東京都中央区銀座 3-5-6



永井 優
PROGRE / 右上
PROGRE101201 / 下左
PROGRE1 01202 / 下右



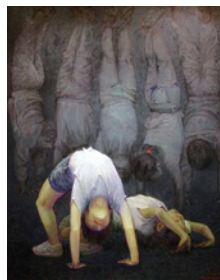
田村 研一
FAN-ZINE II / 上
FAN-ZINE I / 中
子供部屋の静物 / 下



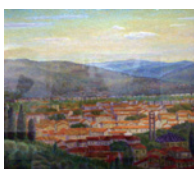
河村 雅文
理科室 / 左上
標本箱 / 右下
かたすみ / 左下



田代 青山
偶像・裂 / 上左
偶像・鳳 / 上右
偶像・蝶 / 左下



新保 甚平
風景 / 右下
フィレンツェ眺望 / 左下
加賀平野 / 右上



松本 義三
子供の時間 I / 上
子供の時間 II / 右下
子供の時間 III / 左下

彫刻

2011.2/14 - 2/24

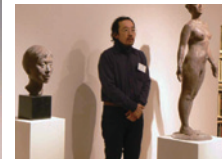
ギャラリーせいほう
東京都中央区銀座 8-10-7



高家 理
どろん湖の花びら



新美 正樹
おもう / 左
風の中 / 右



遠藤 丈太
森の音 / 左
Kさん / 右下



人見 崇子
春 / 右上
鶏頭 / 右下



上松和夫
取り舵 / 右
遺跡になる風景 (立) / 左



新制作

SHINSEISAKU Vol.61/2011

スペース
デザイン

2011.1/24 - 1/29

建築会館ギャラリー
東京都港区芝 5-26-20



井野 若菜
「いしすえのまち」



園浦 眞佐子
「だいじょうぶ、待ってるから」



高田 文
「Everything is in your hand!
～欲しいと望んで～」

福浦 美樹
「prism」



絵 画
＜新作家賞＞ 3名

河村 雅文
田代 青山
永井 優

※新制作協会賞／該当作品無し

(新会員賛助出品)
新保 甚平
田村 研一
松木 義三

彫 刻
＜新作家賞＞ 5名

上松 和夫
遠藤 丈太
高家 理
人見 崇子
新美 正樹

※新制作協会賞／該当作品無し

スペースデザイン
＜新作家賞＞ 4名

井野 若菜
園浦 眞佐子
高田 文
福浦 美樹

※新制作協会賞／該当作品無し

information
展覧会情報

巡回展開催日程

- 京都展
京都市美術館
10/18(火) - 10/23(日)
※渡辺恂三によるワークショップを行います。
- 名古屋展
愛知県芸術文化センター 8F ギャラリー
11/15(火) - 11/20(日)
- 広島展
広島県立美術館・県民ギャラリー
12/6(火) - 12/11(日)

特別展

＜昭和モダン
藤島武二と新制作初期会員たち＞展

● 神戸市立小磯記念美術館
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7
Tel: 078-857-5880
2011.10/15(土) - 2012.1/9(月)

● 川越市立美術館
〒350-0053 川越市郭町中2-30-1
Tel: 049-228-8080
2012.1/28(土) - 3/20(火)

主催／神戸市立小磯記念美術館・川越市立美術館
共催／朝日新聞社 協力／新制作協会絵画部

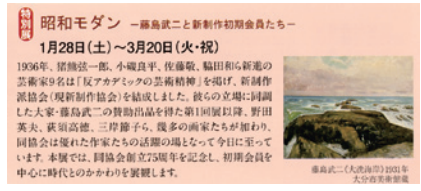
第75回を記念して“昭和モダン—藤島武二と新制作初期会員たち—”展が小磯記念美術館・川越市立美術館にて、今年10月をかわきりに両美術館主催で開催することが決まりました。

創立会員9名をはじめ結成時に同調した大家、藤島武二の賛助出品、第1回展以降すぐれた幾多の画家たちを生み出した新制作を初期会員中心に、時代とのかかわりを展覧します。

初期の新制作展を顕彰できることはとても興味深く有意義です。皆様も是非お出かけ下さい。

小磯記念美術館
展覧会案内
パンフレットより▶

川越市美術館
展覧会案内
パンフレットより▼



SD 会場風景





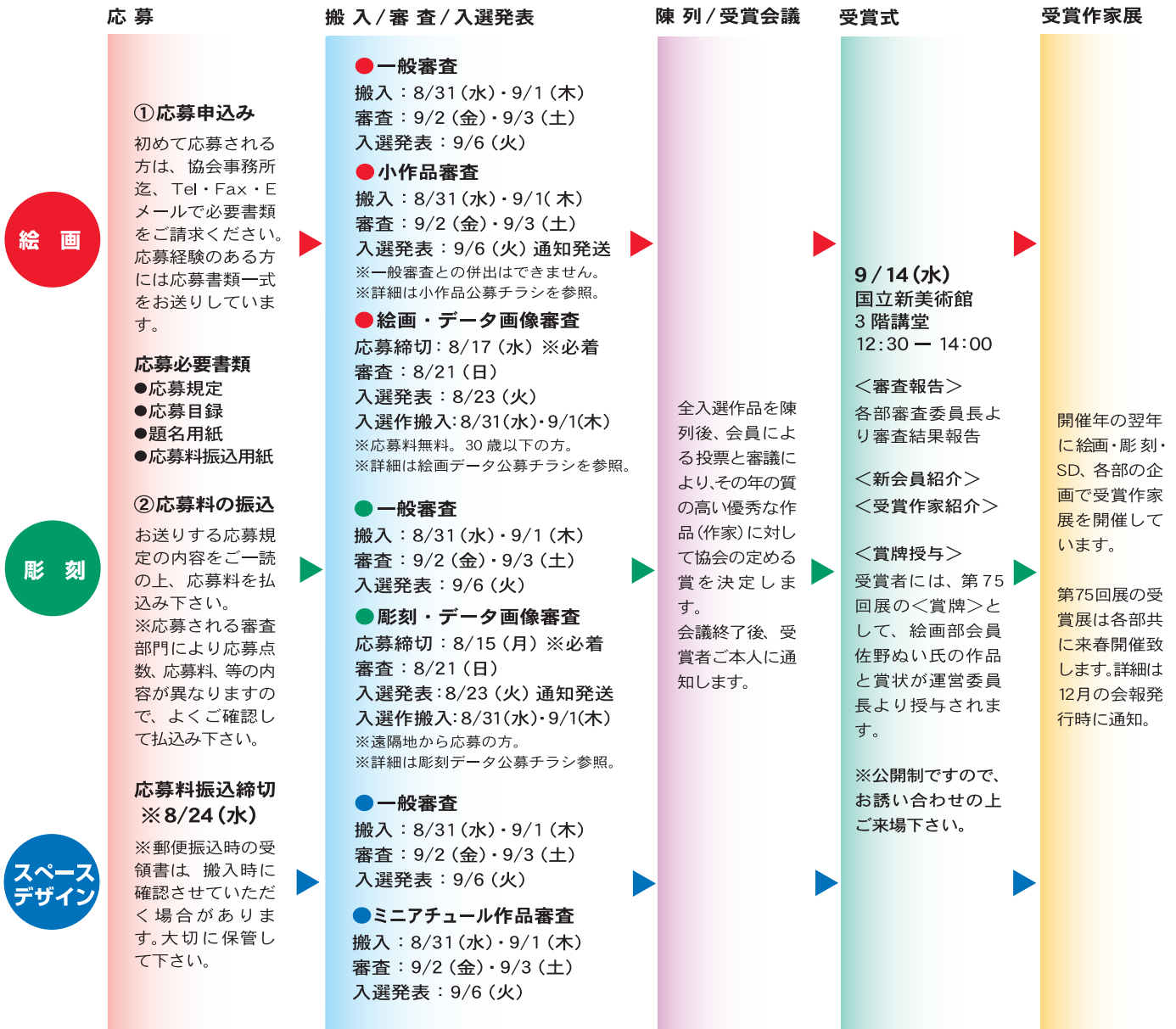
新制作展に初めて応募をされる方、すでに作品応募の準備をされておられる方へ…

新制作展は、2008年の72回展より、上野・東京都美術館から六本木・国立新美術館に開催場所を移し、今年で4回目を迎えます。

作品公募制ですので、質の高い優秀な応募作品を期待し、貴作品による発言の場を設けています。

公募情報は、美術関係誌広告、協会発行の公募ポスター・リーフレット・応募規定、公式ホームページをご覧ください。

作品の応募 ▶ 受賞作家展まで…



● 搬入 / 8月31日(水)・9月1日(木) 10:00 - 17:00迄

国立新美術館地下1階各部受付へ。※昨年より日付けが1日早くなりました。

※<駐車場>搬入・出の駐車は2時間以内。入館時に届出のチェックがあります。

直接搬入 / 応募目録を添え受付に搬入。題名用紙を貼り、必ず受取証の交付を受けて下さい。 ※搬出時に必要ですので保存して下さい。

業者委託搬入 / 搬入日と受付時間を確認し、応募目録と応募料振込受領書(コピー)を取り扱い業者に渡して下さい。 ※業者の指定は特にありません。

● 搬出 / 選外作品 9月10日(土)・11日(日) 10:00 - 17:00迄

入選作品 9月27日(火)・28日(水) 10:00 - 17:00迄

ご注意

● 応募料の支払いは郵便振込をお願いしていますが、やむを得ない場合に限り、搬入時に現金にて受付けます。

※一度振込まれた応募料は返金されませんのでご注意下さい。

● 応募作品が他の作品を破損するおそれがある場合、又は、各部の応募規定に違反する作品と判断された場合、搬入を受付けないことがあります。応募規定を参照して下さい。● 作品の取り扱いは細心の注意を払いますが、不慮の災害等のやむを得ない事情で生じた損傷、紛失について協会はその責を負いません。

応募申し込みと
問い合わせは…

● お電話の場合 / 毎週月、水、金の 10:00 - 17:00迄 Tel.03-5603-8350

● Fax の場合 / 03-5603-8360

● Eメールの場合 / webmaster@shinseisaku.jp

新制作協会 〒110-0013 東京都台東区入谷 2-4-2 増田ビル 202 新制作協会公式ホームページ <http://www.shinseisaku.jp/>

※会期中8/31(水) - 9/28(水)の期間、新制作協会事務所は国立新美術館内に設置します。Tel.03-6812-9921 10:00 - 18:00



第75回記念新制作展は下記委員・委員会により運営されます

委員長 渡辺 恂三 (絵画部)

副委員長 細谷 泰茲 (彫刻部)

副委員長 山下 勤太郎 (スペースデザイン部)

<代表委員>

● 絵画部

千葉 文隆、山口 都、小島 隆三、竹内 一

● 彫刻部

古川 武彦、酒井 良、大野 春夫、本田 悦久

● スペースデザイン部

杉田 文哉、田中 遵、山口 和加子

<三部合同委員会>

● 会計委員会 ● 図録委員会

● 広報委員会 (広報・PR・会報・HP)

● 美術館担当委員会 ● IT 委員会

● 受賞作家展委員会

● 懇親会委員会 ● 慶弔委員会

● 美術団体懇話会委員

● 会計監査委員

<特別委員会>

● 第75回記念新制作展準備委員会

震災関連情報

3月11日の東北地方の災害では、東北在住の会員や出品の方々も被災されております。

● 津波の被害が甚大であった、岩手県陸前高田市在住、絵画部の島山孝一氏より無事の連絡がありました。

「今回も命びろいをしました。一波一撃で町も港も消え50年前の姿にもどりました。電気もなし、水もなし、油もなし、一日一度の食待ちです。自衛官様々でございます。三陸の岩場は瓦礫の山です。家は残りました」

2011.3月28日 絵画部会員 島山 孝一

● 福島県にアトリエを持ち、彫刻部唯一の被災者、岩手県盛岡市在住の高家理 (こうけおさむ) 氏より、震災での声です。

(原文のまま掲載)

私にとっては、震災は現在(6月)進行中である。原発事故さえ無かったなら…。

もうアトリエはだめだと分かっている、諦めがつかない。福島原発から西北西35km程の作業場は、これから彫りたいと思っている石達や、愛した景色が今もそっくりそのまま。しかし、どんなデータを見ても、放射能汚染は絶望的だ。「石なんだが、洗ったら大丈夫なんじゃね？」そんな望みをかけて、ネットにすぎりつくように調べている。が、今

回の事故で、最も汚染の激しい場所から僅か数キロの所で石の彫るというのはどういふものか？

泣いても泣ききれないような、くやしくてたまらない気持ちだ。

あの山にいてこそ彫れる石なのだ。そんじょそこらで扱えるものではない。金やコネも特に無く、体当たりで場所を見つけ、少しずつ大きな機械なども中古で揃え、この数年でようやく山にある石を彫る準備が整ってきた。

「さあ、これから！」という時に…。

「お前たちと、もっとながぶり四つになって

遊びてがった。サヨナラでは言わねけどな」

「放射能ごときが怖えって？病気になるのが怖えのが？彫りてなら彫りゃいいべ」

「本当は、洗って使いたんだよ。んでもない。」

パソコンの前で、腑抜けのように夜を明かす日々。愚痴である。多くの人をもっと深刻な被害を受け、かけがえの無い家族や友人を失った人から見たら驚沢な悩みだ。普通になっただけではないのか？

「出来ることをやれ！今あるものを生かせ！当たり前だと思っている物の価値に気付けば、まだまだ捨てたもんじゃない！」

2011.6月10日 彫刻部協友 高家 理

第75回記念新制作展 祝賀会

● 期日 / 2011.9月14日 (水)
18:00 - 20:00

● 受付 / 17:15より ※会費制

● 会場 / 東京プリンスホテル
プロビデンスホール 於
東京都港区芝公園 3-3-1
03-3432-1111 (大代表)
※駐車場有 / 4時間迄無料

【電車でのアクセス】

・ JR・浜松町駅より徒歩10分

・ 地下鉄三田線 御成門駅 A1 出口 / 徒歩1分

・ 都営浅草・大江戸線 大門駅 A6 出口 / 徒歩7分

会期初日の夕刻、今人気のスポット東京タワーを背景に、芝公園内東京プリンスホテルに於いて、三部合同の懇親会を開催致します。詳細は搬入時、または通知の際にお知らせします。

第75回記念図録販売

75回展の全作品をカラー図版で掲載した記念図録を発行します。尚、出品目録は前回より図録本編に編入しています。入選の方には図録負担金をお願い致します。

発行 / 新制作協会 一部 ¥2,000

訂正

前号会報 60号 / 新会員紹介欄

絵画部新会員 田村 研一氏の経歴に誤植がありましたので、訂正してお詫言いたします。

誤 → 武蔵野美術大学大学院修了

Ⓔ → 京都精華大学美術学部卒業

編集後記

75回を機会に広報委員会では、今号より会報のデザインを一新しました。モノクロ印刷からカラー印刷とし、横組み、左開きになります。A4判で年2回の発行は従来通りです。前号迄の表紙タイトル、創立会員猪熊弦一郎先生による<新制作>の文字は中頁に配置使用していきたいと思っております。また、若い世代にも新制作の魅力を伝えたく更にデザインの工夫を重ねて参ります。今後共宜しくお願い致します。

広報委員会 / 会報編集委員

訃報

平成23年5月末日現在

新制作協会発展に尽力された故人を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。
第75回記念新制作展の会場にはご遺作が展示されます。



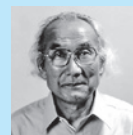
亀本 信子

絵画部会員
平成23年1月5日
享年82歳
肺炎のため逝去



飯田 四郎

絵画部会員
平成23年1月24日
享年75歳
肝硬変のため逝去



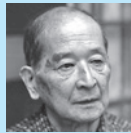
吉田 正浪

彫刻部会員
平成23年1月25日
享年74歳
脳溢血のため逝去



佐藤 忠良

彫刻部創立会員
平成23年3月30日
享年98歳
老衰のため逝去



西 常雄

彫刻部会員
平成23年3月31日
享年99歳
肺炎のため逝去



阿部 米蔵

彫刻部会員
平成23年5月3日
享年99歳
老衰のため逝去



谷上 信博

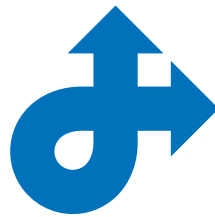
絵画部会員
平成23年5月29日
享年86歳
肺炎のため逝去



新制作

SHINSEISAKU Vol.61 / 2011

この度の東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げると共に、被災された皆様ご家族、及び関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。



新制作協会

〒110-0013
東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202
Tel.03-5603-8350 Fax.03-5603-8360
URL <http://www.shinseisaku.jp/>
E-mail webmaster@shinseisaku.jp

発行／新制作協会
企画・編集／広報委員会 会報編集委員
林 純夫 大田 雅代 中野 威
製作・印刷／株式会社横浜プリント
監修／渡辺 恂三
発行日／2011年6月20日
表紙／渡辺 恂三 画

広報委員会では、新制作展に関わるニュース、伝言、ご批評、ご意見をお待ちしております。お気軽にお寄せください。
次号(秋号/12月発行)をご希望の方は協会事務所迄ご連絡下さい。



第75回記念新制作展
開催ポスター／図録委員会作成
タイトルの新制作展の文字とマークは創立初期の会報で使用していたもので、新制作展の過去・現在・未来を考え出発点のデザインを採用いたしました。現在のマークは後の運営委員によりリメイクされたものです。